

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 4 月 18 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870200676		
法人名	社会福祉法人 亀天会		
事業所名	グループホーム 亀天福寿苑		
所在地	今治市高部字碁石山甲 6 6 1 - 1 (電話) 0898-41-4600		
管理者	八木 春枝		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 3 月 5 日	評価確定日	平成 20 年 4 月 21 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 2 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 28 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	18 人	常勤 16 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	17.8 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,400 円	その他の経費(月額)	18,249 円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 2 月 1 日事業所記入)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護 1	3 名		要介護 2	3 名	
要介護 3	11 名		要介護 4	8 名	
要介護 5	2 名		要支援 2	名	
年齢	平均 82.1 歳	最低 60 歳	最高	96 歳	

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山や川など自然が周囲に多く、風景の一段と良いところにある3階建てのホームで、建物の階ごとにユニットがある。内部はスペースが広く、すっきりと片付けられている。開設して約5年を経過して、利用者の介護度も少しずつ進んできている。食事は1か所で職員が作って配膳しているため、本人の役割がやや発揮しにくい面があるが、職員は利用者の生活パターンを尊重しながら役割や楽しみがもてるよう工夫している。共用空間は広くゆったりしており、手すりも要所所に取り付けてあり、トイレも車いすでも利用できる広さがある。地域との繋がりを大切

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
記録等に要する時間を短縮するために重複を避け、内容も検討して改善している。また、買い物等でお金を使う機会が少ないため、ホーム内に出店を設けて買い物してもらおう機会をつくる行事にも取り組んでいる。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
自己評価の項目を各職員が個々にチェックし、その後全職員で検討して外部評価調査に応じている。自己評価が職員個々の学びの機会となっていると捉えている。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
ホームの現状や行事の報告をし、参加者の意見をいただき話し合っている。介護保険についてや防火・避難訓練をはじめ防災について等も話し合う機会をもっている。介護保険については行政からの情報を受け、ホーム便りにも部分的に記載していくこととしている。また、防災訓練は地域の方を含めた具体的な方法をとっている。行事については地域の方の知恵をいただきながら次に活かしている。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
家族の面会時には、できるだけ話しやすいような雰囲気づくりに配慮して、意見交換している。必要時には電話や手紙でも連絡している。意見や苦情などは職員間で共有して検討し、解決に向けて努力し、運営にも役立っている。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
地方祭、小学校の運動会や老人会、地域の清掃活動などに参加している。また、地域の方に花見・いもたき・クリスマス会などへの参加を呼びかけて盛大に行っている。日常の散歩などではあいさつや立ち話等をする機会もあり、近所の方との交流もできている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム 亀天福寿苑

(ユニット名) タンポポ

記入者(管理者)
氏名 八木春枝

評価完了日 平成 20 年 2 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 職員で話し合い苑独自の理念をかかげ取り組んでいる。 (外部評価) 地域の中でよりその人らしく暮らし続けられることはどうということかを全職員で確認し、生活の柱としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 福寿苑の理念およびユニットごとの理念を持ち実践に向け取り組んでいる。 (外部評価) ホームの理念を基に、各ユニットごとに目標を掲げ、採用時をはじめミーティングや会議などで機会があるごと話し合い、共有している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 2ヶ月に1度、運営推進会を行っている。理念や苑並びに各ユニットの取り組みなど説明や話し合いを行い理解してもらえる様取り組んでいる。また苑便りを家族様へ毎月送付している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) あいさつを交わしている。近所の方が散歩の際、苑庭のベンチを利用して休んでくださったり、立ち寄ってくださったりしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事や活動に参加している。苑の行事にも地域の方も参加して下さっている。 (外部評価) 地域の祭り、清掃活動などの行事には利用者と共に楽しみながら参加している。また、ホーム行事のいもたき、クリスマス会等に地域の方にも参加してもらっている。また、運営推進委員会でアイデアをいただいたことで、地域との交流機会を増やすことができている。自治会への入会は現在検討中である。		地方祭、小学校の運動会や老人会、清掃活動など入居者に無理のない程度ではあるが参加している。苑の花見、芋たき、クリスマス会など地域、の方も参加されている。自治会への入会も検討中である。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 介護や介護保険の手続きなど何でも気軽に相談してくださいと推進会を通じて話合っているが相談はまだできていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員会で検討を行い利用者へより良い支援が行えるよう改善に取り組んでいる。 (外部評価) 評価の意義を理解したうえで、全職員で自己評価に取り組んでおり、評価を活かした具体的な改善にも積極的に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 報告及び話し合いを行い、サービス向上へ反映されるよう努力している。 (外部評価) ホームの現状や行事の報告、福祉に関する情報提供などをを行い、それに対する質問や意見を参加者から出してもらうことで情報交換している。意見はホームの質の向上につなげており、運営推進会議が地域との橋渡し役ともなっている。		苑だよりで、保険情報など教えて欲しいとの意見あり新しい情報など掲載していくようにしていく。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ連絡を行い、市役所にも足を運んでいる。地域包括センターへも足を運んでいる。 (外部評価) 各行政関係手続きや質問等で市担当者との関わりはあるが、十分とは言えない。	※	事業所の課題達成のためにも市担当者と協議しながら解決したり、ホームの情報や取り組みについて説明しながらホームを理解してもらうことを期待する。市担当者や他の市職員も含めてホームでの研修や利用者との交流も期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し勉強会を行っている。また必要に応じて相談にも載るようにしている。		成年後見人制度をされている方がいる。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に注意を払い、機会のある毎に周知徹底を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入苑契約時に説明を行い理解、納得を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの相談にのり、話をする様にしている。家族とも話をさせていただき、意見を得て反映するようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月1回苑便りにて報告を行っている。健康状態、精神状態、生活状態などに応じて随時細かく連絡を行い、面会来苑時にも報告を行なっている。金銭は家族会の時依頼あり苑が管理している。 (外部評価) 月1回のホーム便りで、生活の様子や心身の状況等を伝えている。また、必要時には電話や面会などで情報交換している。職員の異動に関する報告についてはケースバイケースで対応している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情等あれば常時受け付け、向上にむけ取り組んでいる。意見箱も設置している。 (外部評価) 家族等の意見や苦情はホームの内外へ表わせることを説明しており、ホーム内へ具体的に提示している。意見箱も設置しており、また面会時の情報交換も家族等の意見を聞く重要な機会と捉えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会で話し合いを行っている。それ以外にも意見、提案がある時には、苑長、次長が機会を設け話し合いを行っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 努力しているが難しい。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) ユニットケアを行い、移動によるダメージを最小限に抑えるよう努力している。 (外部評価) 各ユニットの責任者は、利用者にとって職員の異動が最小限の影響で済むよう、ケースバイケースで細かく配慮している。代替りの職員、関わり方、組み合わせ等を工夫し、介護計画を基に実践に取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修に順次行っており、それをもとに勉強会を行い職員の資質向上に努めている。 (外部評価) 採用時は主に指導者がマンツーマンで教育し、評価しながらトレーニングしている。経験者には段階に応じて外部研修等に参加する機会を設定し、内部研修として伝達講習を行っている。また、必要に応じてホーム内の勉強会を計画している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 行事を通じて交流を図り、意見交換をおこなっている。 (外部評価) 地域の1グループホームとは行事などで交流しており、互いの情報交換をしている。	※	交流があるホームとは、さらに学習会や職員の相互研修、事例検討等を行うことで、相互のサービスの質向上を目指していくことを期待する。また、交流できるホームを少しずつ増やしていくことで、地域全体の質の向上につなげることも期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 苑長、次長、リーダーが悩みの相談に載ったり、親睦会を開くようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 施設管理ブックに基づいて各自責任をもって業務の遂行が出来るようにしている。		ルールブック業務遂行基準と組織図を描くユニットに設置し職員の意識徹底を図っている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 話をよく聞き受け止める努力をしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 話をよく聞き相談に載るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族にとってより良い支援になるよう努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 苑の見学や面接、相談を行っている。 (外部評価) 見学や相談に応じ、面接等でも対応している。個々の利用者の状況により、家族と共に工夫しながら馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日常的な生活のなかで職員や入居者同士で互いに助け合ったりして関係を築いている。 (外部評価) 日々の生活の中で、職員と本人が共に暮らし、支えあうことを大切にする関係づくりに努めている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 話し合いを行い、信頼関係を築き、共に支えあっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人や家族双方の相談や話相手をして理解に努め、支援するようにしている。		家族のストレスの軽減が図れる様相談に載っている。利用者本人とも話し合いを持ち改善されるよう努力している。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ドライブや家族との外出、外泊を利用して行っていただいたり、来客時ゆっくりと話をさせていただいたりしているが、馴染みの人との面会が困難な方もいる。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 互いによく会話され助け合っていることもあるが、仲の良し悪しもあり、注意を払っている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 可能な場合は面会を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 全ての意向に添うのは難しいが、できる範囲で希望をかなえられるよう検討し支援している。 (外部評価) 利用者の望みや意向を知り、本人の希望にそうよう努めている。また、把握した望みや意向を職員間で共有し、介護計画にも反映させるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式、長谷川式シートなどをおこない把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) バイタルチェックを毎日おこない、身体状態、精神状態の観察、把握をするよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 面会時に家族の方と話あったり、必要に応じ電話連絡を取り合いカンファレンスを行い、主治医への相談も行うようにしている。各意見を反映するよう作成している。 (外部評価) 本人や家族から、日常の関わりの中で意見や思いを聞き、職員間でカンファレンスを行い、利用者個々の計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 変化が生じた場合は期間に関係なく話し合い新たに作成するようにしている。 (外部評価) 介護計画の遂行状況、効果の評価を時々行っており、必要に応じて見直しをしている。変化がない時は3か月ごとに定期的に見直している。本人や家族の意見、職員や関係者の思いを会議等で話し合い、見直しに役立っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の介護記録を行い1ヶ月毎に経過記録を行い評価することによって検討を行い見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 通院など家族の対応困難な場合は苑で柔軟に対応している。 (外部評価) 家族の協力を得ながら、本人の生活や希望についてその時々で応じていけるように情報交換して対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 消防に依頼し救命訓練の講習を行っている。行事等には学生ボランティアの参加をいただいている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 訪問理容を毎月1回利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 情報提供を受け新規入居者の確保をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 各入居者それぞれのかかりつけ医を受診している。状態変化に応じ随時連絡、指示を仰いで支援しているが、夜間は救急当番医を利用している。 (外部評価) 本人、家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している。必要時にはホームのかかりつけ医及び夜間の緊急病院も利用している。看護職が中心となって情報交換するなどして、適切に医療と連携が図れるように配慮している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要に応じ、専門医へ随時受診あるいは相談をおこなっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員がおり健康管理を行っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 定期的に訪問し情報交換を行い対応している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 家族へ状態説明を行い本人、家族の意向を話し合う。主治医へも密に相談、報告を行い対応する。方針を検討し共有するようにしている。 (外部評価) 時々家族等と話し合い、医師を含めた関係者と検討している。ホームで対応可能な時までには支援している。		家族と良く話し合い苑で対応可能な限り支援している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人や家族の意向を考慮し主治医と相談し、指示を仰ぎ、苑において出来る限りの範囲で検討支援をおこなっている。苑での対応困難な身体状態になった場合は主治医の指示を仰ぎ入院措置をとっている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入居先への情報交換をしっかりと行う。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 言葉掛けや対応に気を付けるようにしているが完全には出来ていない。個人情報の取り扱いには注意している。 (外部評価) 職員は本人の誇りやプライバシーを大切にしたい言動に気をつけている。記録類の取り扱いにも注意している。面会簿はノート形式で管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 認知症の進行に伴い理解が困難な方もおられるが説明を何度も行うようにしている。なかなか納得を得るのが難しい。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の都合を優先する場合もあるが出来るだけ各自のペースで生活できるよう努力している。 (外部評価) 職員は一人ひとりのペースを尊重した生活を大切にしたいと考えており、本人の希望に沿った支援を目指している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 家族と希望される美容院へ行かれる方もいるが苑への出張理容を利用されている方がほとんどである。自分でもたれている化粧品でおしゃれをされている方もいる。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は給食部が作り調理は利用者はされていない。献立は栄養士が行っている。配膳も困難なかがほとんどである。下膳など片付けは出来る方もいる。 (外部評価) 献立は栄養士が立て、1か所で職員が調理したものを介護職が個々に配膳しており、片付けも職員が行っている。職員は一緒にテーブルで各自が持参した弁当などを食べている。介助の必要な方に対してもさりげない支援をしている。	※	利用者にとって、食事の場面での役割があまりないため、それぞれに応じた役割を見つけることを期待する。また、利用者と同じ食事をとることの意味についても検討を期待する。食事内容の好みを聞いたり、食堂以外で食事する機会についても検討することを期待する。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) おやつは給食部の管理となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を付けトイレ誘導や声かけをおこない各自のリズムに合わせるようにしている。紙パンツやパットの使用を減らせた方もいるが、認知症の進行に伴い減らせていない方もいる。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴はほぼ毎日あり、入るかどうかは本人の希望に合わせてようにしている。時間帯は職員数の関係もあり決まってしまうが、入浴はゆっくりくつろげるように入っている。 (外部評価) 毎日入浴可能な体制となっており、できるだけ本人の希望にそうよう支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 安心して眠れるよう支援し、昼間の自由に休息されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) レクやドライブ、行事など取り入れている。入居者の希望により臨機応変に対応している。 (外部評価) レクリエーションや行事などを計画している。日常生活の中で、掃除・洗濯物たたみ・縫物等の役割を担ってもらっているが、食事の前後に関する役割がないために全体的に役割のメニューが少ない。	※	利用者の生活歴や意向、家族からの情報等から、本人の力に合った役割や楽しみごとを見つけ、支援することを期待する。特に食に関することは生活の上では大切なので、役割をもてるよう工夫することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 月1回買い物レクを行っている。お金に対する認識が無い方がほとんどであるが使っていただくようにしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩などしているが、身体的状況により外出機会の少ない方もいる。 (外部評価) 散歩は日常的に出かけられるよう支援している。買い物や弁当持参での外出機会は少ないが、買い物の機会が少ないためにホーム内で職員が店を作り、お金の支払いの機会をもつように配慮している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 皆で月1, 2回外出するようにしているようにしている。家族の方と一緒にいくこともあるが、全員の希望に添えないときもある。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は家族から拒否の方がおられる。また、本人が掛けるということが出来ないあるいは理解不可のかたも多くおられ自ら掛けることが出来ていないが、電話口に出て話すことはできている。		手紙やはがきを出せるように支援していきたい。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に訪問して下さっており、居室にて一緒にすごされたりホールにて会話されたりされている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていないが安全面を考慮し言葉による拘束がやむを得ずでることがある。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 徘徊や帰宅願望、不穏等あり危険回避のため玄関に施錠せざるをえない状況である。 (外部評価) 入所して日が浅い利用者で、帰宅願望が強い方がいるため、調査日現在は2つのユニットで鍵をかけている。職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、家族には説明して了解を得ている。玄関や共用空間の要所にはモニターが設置されているが、鍵をかけない方法について検討を続けることを期待する。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) ホールにおられる時は常に見守りを行っているが居室に居られる時はプライバシーの配慮の為充分には把握できない方もいる。(家族様了承済み)		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 各利用者の状態に応じて対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 勉強会を毎月行い知識や危機管理意識の向上に取り組んでいる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 勉強会において看護職員、消防署職員による指導、訓練を定期的に行っている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 3階建てのため危険を認識し定期的に訓練を行い、近隣住民の方へ協力を依頼している。 (外部評価) 年2回訓練を実施しており、訓練後には評価を行って次に活かしている。近隣住民の協力体制はできているが、非常災害時の避難場所や備蓄等についても具体的に検討することを期待する。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 家族へ利用者の状態とリスクを説明し、本人にとって最良と思われる策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調変化は職員間で速やかに話し合い、家族へ連絡し対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護職員が管理している。全職員が全ての薬を細かく把握するという事には至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物は栄養士の管理となっているが、刻み対応水分補給に心かけている。散歩やレクを取り入れている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、栄養は栄養士管理ではあるが摂取量は職員が一人一人の確認を行い対応している。摂取状態を栄養士に報告し献立に反映依頼している。 (外部評価) 栄養士によるチェックを受けており、制限食の方は主食の量で調節している。水分は食事・間食時と夜間に気をつけており、夏期の水分補給には特に注意している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インフルエンザの予防接種を行っている。うがい、手洗いを実施し居室、ホール、トイレ等の消毒を行っている。汚染対応時は手袋使用している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は給食部にて管理している。食器は定期的に消毒している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 花壇があり近所の方も一緒に手入れをしてくれている。 玄関横のベンチを利用してくださったりしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 清潔に心掛け、季節の展示物や花を飾ったりしている。 (外部評価) 居間、食堂、廊下、トイレ、ベランダ等共用空間は広々とゆったりしている。台所のスペースが目に入らない配置のためすっきりしており、余分なものがなく片付いている。季節の飾りや草花が配され、四季を感じられるような工夫がある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各自の自然に出来た指定席のようなものがある。気のあった方同士と一緒に過ごされたりしている。一人になられたい時は居室に入られている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使いなれた家具など持ってこられている。 (外部評価) 大きなロッカーが設置されており、全体にすっきりしているが、それぞれが使い慣れた品物を持ち込んでいる居室は少ない。	※	使い慣れた品物の持ち込みが少ないため、家族の協力を得ながら、本人にとって居心地の良い居室となるよう検討を重ねることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気や空調はこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリー、手すりにて対応している。		脱衣場にも手すりを付けたい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 声かけ見守りを行い自分で出来る事はして頂き、また出来る範囲での家事への参加をして頂いている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 天気の良い日は外気浴、日光浴を行い、花摘みや家庭菜園をおこなっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	毎日入居者の方と会話をしコミュニケーションを取って把握するようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	食事やお茶を一緒にゆっくりと摂ったり会話したりする。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	見当識障害の方の影響が大きくあり、各自のペースで暮らせるよう努めているが、困難な部分もある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居を納得されていない方や、帰宅願望の激しいかたがいるものの、毎日笑顔や笑い声はある。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の身体的及び職員の人数配置により困難な部分があるが出来るだけ支援するようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日のバイタルチェック、身体観察を行い状態に応じ受診をおこなっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望に沿える様、苑でできる範囲の対応はしている
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時等利用し相談、話し合いをおこなっている。また必要に応じ電話連絡もとっている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	たまに尋ねてきてくださっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域行事や苑行事への参加が増えてきている。
98	職員は、活き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員同士は協力しあって互いに信頼し仕事をしているが、ストレスがありストレス解消の必要がある。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	満足していると思われるが全員が十分に満足できるほどには至っていない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時や推進会において家族様より声を頂いている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

地域行事へ参加したり、苑の行事で地域の方、家族様、ボランティア、他事業所の方との交流をはかっている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム 亀天福寿苑

(ユニット名) コスモス

記入者(管理者)
氏名 八木春枝

評価完了日 平成 20 年 2 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 職員で話し合い苑独自の理念をかかげ取り組んでいる。 (外部評価) 地域の中でよりその人らしく暮らし続けられることはどうということかを全職員で確認し、生活の柱としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 福寿苑の理念およびユニットごとの理念を持ち実践に向け取り組んでいる。 (外部評価) ホームの理念を基に、各ユニットごとに目標を掲げ、採用時をはじめミーティングや会議などで機会があるごと話し合い、共有している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 2ヶ月に1度、運営推進会を行っている。理念や苑並びに各ユニットの取り組みなど説明や話し合いを行い理解してもらえる様取り組んでいる。また苑便りを家族様へ毎月送付している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) あいさつを交わしている。近所の方が散歩の際、苑庭のベンチを利用して休んでくださったり、立ち寄ってくださったりしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事や活動に参加している。苑の行事にも地域の方も参加して下さっている。 (外部評価) 地域の祭り、清掃活動などの行事には利用者と共に関心しながら参加している。また、ホーム行事のいもたき、クリスマス会等に地域の方にも参加してもらっている。また、運営推進委員会でアイデアをいただいたことで、地域との交流機会を増やすことができている。自治会への入会は現在検討中である。		地方祭、小学校の運動会や老人会、清掃活動など入居者に無理のない程度ではあるが参加している。苑の花見、芋たき、クリスマス会など地域、の方も参加されている。自治会への入会も検討中である。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 介護や介護保険の手続きなど何でも気軽に相談して下さいと推進会を通じて話合っているが相談はまだできていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員会で検討を行い利用者へより良い支援が行えるよう改善に取り組んでいる。 (外部評価) 評価の意義を理解したうえで、全職員で自己評価に取り組んでおり、評価を活かした具体的な改善にも積極的に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 報告及び話し合いを行い、サービス向上へ反映されるよう努力している。 (外部評価) ホームの現状や行事の報告、福祉に関する情報提供などをを行い、それに対する質問や意見を参加者から出してもらうことで情報交換している。意見はホームの質の向上につなげており、運営推進会議が地域との橋渡し役ともなっている。		苑だよりで、保険情報など教えて欲しいとの意見あり新しい情報など掲載していくようにしていく。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ連絡を行い、市役所にも足を運んでいる。地域包括センターへも足を運んでいる。 (外部評価) 各行政関係手続きや質問等で市担当者との関わりはあるが、十分とは言えない。	※	事業所の課題達成のためにも市担当者と協議しながら解決したり、ホームの情報や取り組みについて説明しながらホームを理解してもらうことを期待する。市担当者や他の市職員も含めてホームでの研修や利用者との交流も期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し勉強会を行っている。また必要に応じて相談にも載るようにしている。		成年後見人制度をされている方がいる。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に注意を払い、機会のある毎に周知徹底を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入苑契約時に説明を行い理解、納得を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの相談にのり、話をする様にしている。家族とも話をさせていただき、意見を得て反映するようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月1回苑便りにて報告を行っている。健康状態、精神状態、生活状態などに応じて随時細かく連絡を行い、面会来苑時にも報告を行なっている。金銭は家族会の時依頼あり苑が管理している。 <hr/> (外部評価) 月1回のホーム便りで、生活の様子や心身の状況等を伝えている。また、必要時には電話や面会などで情報交換している。職員の異動に関する報告についてはケースバイケースで対応している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情等あれば常時受け付け、向上にむけ取り組んでいる。意見箱も設置している。 <hr/> (外部評価) 家族等の意見や苦情はホームの内外へ表わせることを説明しており、ホーム内へ具体的に提示している。意見箱も設置しており、また面会時の情報交換も家族等の意見を聞く重要な機会と捉えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会で話し合いを行っている。それ以外にも意見、提案がある時には、苑長、次長が機会を設け話し合いを行っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 努力しているが難しい。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) ユニットケアを行い、移動によるダメージを最小限に抑えるよう努力している。 (外部評価) 各ユニットの責任者は、利用者にとって職員の異動が最小限の影響で済むよう、ケースバイケースで細かく配慮している。代替りの職員、関わり方、組み合わせ等を工夫し、介護計画を基に実践に取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修に順次行っており、それをもとに勉強会を行い職員の資質向上に努めている。 (外部評価) 採用時は主に指導者がマンツーマンで教育し、評価しながらトレーニングしている。経験者には段階に応じて外部研修等に参加する機会を設定し、内部研修として伝達講習を行っている。また、必要に応じてホーム内の勉強会を計画している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 行事を通じて交流を図り、意見交換をおこなっている。 (外部評価) 地域の1グループホームとは行事などで交流しており、互いの情報交換をしている。	※	交流があるホームとは、さらに学習会や職員の相互研修、事例検討等を行うことで、相互のサービスの質向上を目指していくことを期待する。また、交流できるホームを少しずつ増やしていくことで、地域全体の質の向上につなげることも期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 苑長、次長、リーダーが悩みの相談に載ったり、親睦会を開くようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 施設管理ブックに基づいて各自責任をもって業務の遂行が出来るようにしている。		ルールブック業務遂行基準と組織図を描くユニットに設置し職員の意識徹底を図っている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 話をよく聞き受け止める努力をしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 話をよく聞き相談に載るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族にとってより良い支援になるよう努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 苑の見学や面接、相談を行っている。 (外部評価) 見学や相談に応じ、面接等でも対応している。個々の利用者の状況により、家族と共に工夫しながら馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日常的な生活のなかで職員や入居者同士で互いに助け合ったりして関係を築いている。 (外部評価) 日々の生活の中で、職員と本人が共に暮らし、支えあうことを大切にする関係づくりに努めている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 話し合いを行い、信頼関係を築き、共に支えあっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人や家族双方の相談や話相手をして理解に努め、支援するようにしている。		家族のストレスの軽減が図れる様相談に載っている。利用者本人とも話し合いを持ち改善されるよう努力している。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ドライブや家族との外出、外泊を利用して行っていただいたり、来客時ゆっくりと話をさせていただいたりしているが、馴染みの人との面会が困難な方もいる。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 互いによく会話され助け合っていることもあるが、仲の良し悪しもあり、注意を払っている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 可能な場合は面会を行っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 全ての意向に添うのは難しいが、できる範囲で希望をかなえられるよう検討し支援している。 (外部評価) 利用者の望みや意向を知り、本人の希望にそうよう努めている。また、把握した望みや意向を職員間で共有し、介護計画にも反映させるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式、長谷川式シートなどをおこない把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) バイタルチェックを毎日おこない、身体状態、精神状態の観察、把握をするよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 面会時に家族の方と話あったり、必要に応じ電話連絡を取り合いカンファレンスを行い、主治医への相談も行うようにしている。各意見を反映するよう作成している。 (外部評価) 本人や家族から、日常の関わりの中で意見や思いを聞き、職員間でカンファレンスを行い、利用者個々の計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 変化が生じた場合は期間に関係なく話し合い新たに作成するようにしている。 (外部評価) 介護計画の遂行状況、効果の評価を時々行っており、必要に応じて見直しをしている。変化がない時は3か月ごとに定期的に見直している。本人や家族の意見、職員や関係者の思いを会議等で話し合い、見直しに役立てている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の介護記録を行い1ヶ月毎に経過記録を行い評価することによって検討を行い見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 通院など家族の対応困難な場合は苑で柔軟に対応している。 (外部評価) 家族の協力を得ながら、本人の生活や希望についてその時々で応じていけるように情報交換して対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 消防に依頼し救命訓練の講習を行っている。行事等には学生ボランティアの参加をいただいている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 訪問理容を毎月1回利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 情報提供を受け新規入居者の確保をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 各入居者それぞれのかかりつけ医を受診している。状態変化に応じ随時連絡、指示を仰いで支援しているが、夜間は救急当番医を利用している。 (外部評価) 本人、家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している。必要時にはホームのかかりつけ医及び夜間の緊急病院も利用している。看護職が中心となって情報交換するなどして、適切に医療と連携が図れるように配慮している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要に応じ、専門医へ随時受診あるいは相談をおこなっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員がおり健康管理を行っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 定期的に訪問し情報交換を行い対応している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 家族へ状態説明を行い本人、家族の意向を話し合う。主治医へも密に相談、報告を行い対応する。方針を検討し共有するようにしている。 (外部評価) 時々家族等と話し合い、医師を含めた関係者と検討している。ホームで対応可能な時までには支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人や家族の意向を考慮し主治医と相談し、指示を仰ぎ、苑において出来る限りの範囲で検討支援をおこなっている。苑での対応困難な身体状態になった場合は主治医の指示を仰ぎ入院措置をとっている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入居先への情報交換をしっかりと行う。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 言葉掛けや対応に気を付けるようにしているが完全には出来ていない。個人情報の取り扱いには注意している。 (外部評価) 職員は本人の誇りやプライバシーを大切にしたい言動に気をつけている。記録類の取り扱いにも注意している。面会簿はノート形式で管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 認知症の進行に伴い理解が困難な方もおられるが説明を何度も行うようにしている。なかなか納得を得るのが難しい。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の都合を優先する場合もあるが出来るだけ各自のペースで生活できるよう努力している。 (外部評価) 職員は一人ひとりのペースを尊重した生活を大切にしたいと考えており、本人の希望に沿った支援を目指している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 家族と希望される美容院へ行かれる方もいるが苑への出張理容を利用されている方がほとんどである。自分でもたれている化粧品でおしゃれをされている方もいる。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は給食部が作っており調理は利用者はされていない。献立は栄養士が行っている。配膳も困難なかがほとんどである。下膳など片付けは出来る方もいる。 (外部評価) 献立は栄養士が立て、1か所で職員が調理したものを介護職が個々に配膳しており、片付けも職員が行っている。職員は一緒にテーブルで各自が持参した弁当などを食べている。介助の必要な方に対してもさりげない支援をしている。	※	利用者にとって、食事の場面での役割があまりないため、それぞれに応じた役割を見つけることを期待する。また、利用者と同じ食事をとることの意味についても検討を期待する。食事内容の好みを聞いたり、食堂以外で食事する機会についても検討することを期待する。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) おやつは給食部の管理となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を付けトイレ誘導や声かけをおこない各自のリズムに合わせるようにしている。紙パンツやパットの使用を減らせた方もいるが、認知症の進行に伴い減らせていない方もいる。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴はほぼ毎日あり、入るかどうかは本人の希望に合わせている。時間帯は職員数の関係もあり決まってしまうが、入浴はゆっくりくつろげるように入っている。 (外部評価) 毎日入浴可能な体制となっており、できるだけ本人の希望にそうよう支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 安心して眠れるよう支援し、昼間の自由に休息されている。		昼夜逆転、夜間せん妄のある方などは主治医と相談し対応している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) レクやドライブ、行事など取り入れている。入居者の希望により臨機応変に対応している。 (外部評価) レクリエーションや行事などを計画している。日常生活の中で、掃除・洗濯物たたみ・縫物等の役割を担ってもらっているが、食事の前後に関する役割がないために全体的に役割のメニューが少ない。	※	利用者の生活歴や意向、家族からの情報等から、本人の力に合った役割や楽しみごとを見つけ、支援することを期待する。特に食に関することは生活の上では大切なので、役割をもてるよう工夫することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 月1回買い物レクを行っている。お金に対する認識が無い方がほとんどであるが使っていただくようにしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩などしているが、身体的状況により外出機会の少ない方もいる。 (外部評価) 散歩は日常的に出かけられるよう支援している。買い物や弁当持参での外出機会は少ないが、買い物の機会が少ないためにホーム内で職員が店を作り、お金の支払いの機会をもつように配慮している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 皆で月1、2回外出するようにしているようにしている。家族の方と一緒にいくこともあるが、全員の希望に添えないときもある。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は家族から拒否の方がおられる。また、本人が掛けるということが出来ないあるいは理解不可のかたも多くおられ自ら掛けることが出来ていないが、電話口に出て話すことはできている。		手紙やはがきを出せるように支援していきたい。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に訪問してくださっており、居室にて一緒にすごされたりホールにて会話されたりされている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていないが安全面を考慮し言葉による拘束がやむを得ずでることがある。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 徘徊や帰宅願望、不穏等あり危険回避のため玄関に施錠せざるをえない状況である。 (外部評価) 入所して日が浅い利用者で、帰宅願望が強い方がいるため、調査日現在は2つのユニットで鍵をかけている。職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、家族には説明して了解を得ている。玄関や共用空間の要所にはモニターが設置されているが、鍵をかけない方法について検討を続けることを期待する。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) ホールにおられる時は常に見守りを行っているが居室に居られる時はプライバシーの配慮の為充分には把握できない方もいる。(家族様了承済み)		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 各利用者の状態に応じて対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 勉強会を毎月行い知識や危機管理意識の向上に取り組んでいる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 勉強会において看護職員、消防署職員による指導、訓練を定期的に行っている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 3階建てのため危険を認識し定期的に訓練を行い、近隣住民の方へ協力を依頼している。 (外部評価) 年2回訓練を実施しており、訓練後には評価を行って次に活かしている。近隣住民の協力体制はできているが、非常災害時の避難場所や備蓄等についても具体的に検討することを期待する。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 家族へ利用者の状態とリスクを説明し、本人にとって最良と思われる策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調変化は職員間で速やかに話し合い、家族へ連絡し対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護職員が管理している。全職員が全ての薬を細かく把握するという事には至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物は栄養士の管理となっているが、刻み対応水分補給に心かけている。散歩やレクを取り入れている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、栄養は栄養士管理ではあるが摂取量は職員が一人一人の確認を行い対応している。摂取状態を栄養士に報告し献立に反映依頼している。 (外部評価) 栄養士によるチェックを受けており、制限食の方は主食の量で調節している。水分は食事・間食時と夜間に気をつけており、夏期の水分補給には特に注意している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インフルエンザの予防接種を行っている。うがい、手洗いを実施し居室、ホール、トイレ等の消毒を行っている。汚染対応時は手袋使用している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は給食部にて管理している。食器は定期的に消毒している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 花壇があり近所の方も一緒に手入れをしてくれている。 玄関横のベンチを利用してくださったりしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 清潔に心掛け、季節の展示物や花を飾ったりしている。 (外部評価) 居間、食堂、廊下、トイレ、ベランダ等共用空間は広々とゆったりしている。台所のスペースが目に入らない配置のためすっきりしており、余分なものがなく片付いている。季節の飾りや草花が配され、四季を感じられるような工夫がある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各自の自然に出来た指定席のようなものがある。気のあった方同士と一緒に過ごされたりしている。一人になりたい時は居室に入られている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使いなれた家具など持ってこられている。 (外部評価) 大きなロッカーが設置されており、全体にすっきりしているが、それぞれが使い慣れた品物を持ち込んでいる居室は少ない。	※	使い慣れた品物の持ち込みが少ないため、家族の協力を得ながら、本人にとって居心地の良い居室となるよう検討を重ねることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気や空調はこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリー、手すりにて対応している。		脱衣場にも手すりを付けたい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 声かけ見守りを行い自分で出来る事はして頂き、また出来る範囲での家事への参加をして頂いている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 天気の良い日は外気浴、日光浴を行い、花摘みや家庭菜園をおこなっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	毎日入居者の方と会話をを行いコミュニケーションを取って把握するようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	食事やお茶を一緒にゆっくりと摂ったり会話したりする。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	見当識障害の方の影響が大きくあり、各自のペースで暮らせるよう努めているが、困難な部分もある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居を納得されていない方や、帰宅願望の激しいかたがいるものの、毎日笑顔や笑い声はある。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の身体的及び職員の人数配置により困難な部分があるが出来るだけ支援するようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日のバイタルチェック、身体観察を行い状態に応じ受診をおこなっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望に沿える様、苑でできる範囲の対応はしている
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時等利用し相談、話し合いをおこなっている。また必要に応じ電話連絡もとっている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	たまに尋ねてきてくださっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域行事や苑行事への参加が増えてきている。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員同士は協力しあって互いに信頼し仕事をしているが、ストレスがありストレス解消の必要がある。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	満足していると思われるが全員が十分に満足できるほどには至っていない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時や推進会において家族様より声を頂いている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

地域行事へ参加したり、苑の行事で地域の方、家族様、ボランティア、他事業所の方との交流をはかっている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム 亀天福寿苑

(ユニット名) ひまわり

記入者(管理者)
氏名 八木 春枝

評価完了日 平成 20 年 2 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 職員で話し合い苑独自の理念をかかげ取り組んでいる。 (外部評価) 地域の中でよりその人らしく暮らし続けられることはどうということかを全職員で確認し、生活の柱としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 福寿苑の理念およびユニットごとの理念を持ち実践に向け取り組んでいる。 (外部評価) ホームの理念を基に、各ユニットごとに目標を掲げ、採用時をはじめミーティングや会議などで機会があるごと話し合い、共有している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 2ヶ月に1度、運営推進会を行っている。理念や苑並びに各ユニットの取り組みなど説明や話し合いを行い理解してもらえる様取り組んでいる。また苑便りを家族様へ毎月送付している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) あいさつを交わしている。近所の方が散歩の際、苑庭のベンチを利用して休んでくださったり、立ち寄ってくださったりしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事や活動に参加している。苑の行事にも地域の方も参加して下さっている。 (外部評価) 地域の祭り、清掃活動などの行事には利用者と共楽しみながら参加している。また、ホーム行事のいもたき、クリスマス会等に地域の方にも参加してもらっている。また、運営推進委員会でアイデアをいただいたことで、地域との交流機会を増やすことができています。自治会への入会は現在検討中である。		地方祭、小学校の運動会や老人会、清掃活動など入居者に無理のない程度ではあるが参加している。苑の花見、芋たき、クリスマス会など地域、の方も参加されている。自治会への入会も検討中である。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 介護や介護保険の手続きなど何でも気軽に相談して下さいと推進会を通じて話合っているが相談はまだできていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員会で検討を行い利用者へより良い支援が行えるよう改善に取り組んでいる。 (外部評価) 評価の意義を理解したうえで、全職員で自己評価に取り組んでおり、評価を活かした具体的な改善にも積極的に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 報告及び話し合いを行い、サービス向上へ反映されるよう努力している。 (外部評価) ホームの現状や行事の報告、福祉に関する情報提供などをを行い、それに対する質問や意見を参加者から出してもらうことで情報交換している。意見はホームの質の向上につなげており、運営推進会議が地域との橋渡し役ともなっている。		苑だよりで、保険情報など教えて欲しいとの意見あり新しい情報など掲載していくようにしていく。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ連絡を行い、市役所にも足を運んでいる。地域包括センターへも足を運んでいる。 (外部評価) 各行政関係手続きや質問等で市担当者との関わりはあるが、十分とは言えない。	※	事業所の課題達成のためにも市担当者と協議しながら解決したり、ホームの情報や取り組みについて説明しながらホームを理解してもらうことを期待する。市担当者や他の市職員も含めてホームでの研修や利用者との交流も期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し勉強会を行っている。また必要に応じて相談にも載るようにしている。		成年後見人制度をされている方がいる。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に注意を払い、機会のある毎に周知徹底を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入苑契約時に説明を行い理解、納得を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの相談にのり、話をする様になっている。家族とも話をさせていただき、意見を得て反映するようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月1回苑便りにて報告を行っている。健康状態、精神状態、生活状態などに応じて随時細かく連絡を行い、面会来苑時にも報告を行なっている。金銭は家族会の時依頼あり苑が管理している。 <hr/> (外部評価) 月1回のホーム便りで、生活の様子や心身の状況等を伝えている。また、必要時には電話や面会などで情報交換している。職員の異動に関する報告についてはケースバイケースで対応している。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情等あれば常時受け付け、向上にむけ取り組んでいる。意見箱も設置している。 <hr/> (外部評価) 家族等の意見や苦情はホームの内外へ表わせることを説明しており、ホーム内へ具体的に提示している。意見箱も設置しており、また面会時の情報交換も家族等の意見を聞く重要な機会と捉えている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会で話し合いを行っている。それ以外にも意見、提案がある時には、苑長、次長が機会を設け話し合いを行っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 努力しているが難しい。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) ユニットケアを行い、移動によるダメージを最小限に抑えるよう努力している。 (外部評価) 各ユニットの責任者は、利用者にとって職員の異動が最小限の影響で済むよう、ケースバイケースで細かく配慮している。代替りの職員、関わり方、組み合わせ等を工夫し、介護計画を基に実践に取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修に順次行っており、それをもとに勉強会を行い職員の資質向上に努めている。 (外部評価) 採用時は主に指導者がマンツーマンで教育し、評価しながらトレーニングしている。経験者には段階に応じて外部研修等に参加する機会を設定し、内部研修として伝達講習を行っている。また、必要に応じてホーム内の勉強会を計画している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 行事を通じて交流を図り、意見交換をおこなっている。 (外部評価) 地域の1グループホームとは行事などで交流しており、互いの情報交換をしている。	※	交流があるホームとは、さらに学習会や職員の相互研修、事例検討等を行うことで、相互のサービスの質向上を目指していくことを期待する。また、交流できるホームを少しずつ増やしていくことで、地域全体の質の向上につなげることも期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 苑長、次長、リーダーが悩みの相談に載ったり、親睦会を開くようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 施設管理ブックに基づいて各自責任をもって業務の遂行が出来るようにしている。		ルールブック業務遂行基準と組織図を描くユニットに設置し職員の意識徹底を図っている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 話をよく聞き受け止める努力をしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 話をよく聞き相談に載るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族にとってより良い支援になるよう努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 苑の見学や面接、相談を行っている。 (外部評価) 見学や相談に応じ、面接等でも対応している。個々の利用者の状況により、家族と共に工夫しながら馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日常的な生活のなかで職員や入居者同士で互いに助け合ったりして関係を築いている。 (外部評価) 日々の生活の中で、職員と本人が共に暮らし、支えあうことを大切にする関係づくりに努めている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 話し合いを行い、信頼関係を築き、共に支えあっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人や家族双方の相談や話相手をして理解に努め、支援するようにしている。		家族のストレスの軽減が図れる様相談に載っている。利用者本人とも話し合いを持ち改善されるよう努力している。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ドライブや家族との外出、外泊を利用して行っていただいたり、来客時ゆっくりと話をさせていただいたりしているが、馴染みの人との面会が困難な方もいる。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 互いによく会話され助け合っていることもあるが、仲の良し悪しもあり、注意を払っている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 可能な場合は面会を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 全ての意向に添うのは難しいが、できる範囲で希望をかなえられるよう検討し支援している。 (外部評価) 利用者の望みや意向を知り、本人の希望にそうよう努めている。また、把握した望みや意向を職員間で共有し、介護計画にも反映させるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式、長谷川式シートなどをおこない把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) バイタルチェックを毎日おこない、身体状態、精神状態の観察、把握をするよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 面会時に家族の方と話あったり、必要に応じ電話連絡を取り合いカンファレンスを行い、主治医への相談も行うようにしている。各意見を反映するよう作成している。 <hr/> (外部評価) 本人や家族から、日常の関わりの中で意見や思いを聞き、職員間でカンファレンスを行い、利用者個々の計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 変化が生じた場合は期間に関係なく話し合い新たに作成するようにしている。 <hr/> (外部評価) 介護計画の遂行状況、効果の評価を時々行っており、必要に応じて見直しをしている。変化がない時は3か月ごとに定期的に見直しをしている。本人や家族の意見、職員や関係者の思いを会議等で話し合い、見直しに役立っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日の介護記録を行い1ヶ月毎に経過記録を行い評価することによって検討を行い見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 通院など家族の対応困難な場合は苑で柔軟に対応している。 (外部評価) 家族の協力を得ながら、本人の生活や希望についてその時々で応じていけるように情報交換して対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 消防に依頼し救命訓練の講習を行っている。行事等には学生ボランティアの参加をいただいている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 訪問理容を毎月1回利用している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 情報提供を受け新規入居者の確保をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 各入居者それぞれのかかりつけ医を受診している。状態変化に応じ随時連絡、指示を仰いで支援しているが、夜間は救急当番医を利用している。 (外部評価) 本人、家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している。必要時にはホームのかかりつけ医及び夜間の緊急病院も利用している。看護職が中心となって情報交換するなどして、適切に医療と連携が図れるように配慮している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要に応じ、専門医へ随時受診あるいは相談をおこなっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員がおり健康管理を行っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 定期的に訪問し情報交換を行い対応している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 家族へ状態説明を行い本人、家族の意向を話し合う。主治医へも密に相談、報告を行い対応する。方針を検討し共有するようにしている。 (外部評価) 時々家族等と話し合い、医師を含めた関係者と検討している。ホームで対応可能な時までには支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人や家族の意向を考慮し主治医と相談し、指示を仰ぎ、苑において出来る限りの範囲で検討支援をおこなっている。苑での対応困難な身体状態になった場合は主治医の指示を仰ぎ入院措置をとっている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入居先への情報交換をしっかりと行う。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 言葉掛けや対応に気を付けるようにしているが完全には出来ていない。個人情報の取り扱いには注意している。 (外部評価) 職員は本人の誇りやプライバシーを大切にしたい言動に気をつけている。記録類の取り扱いにも注意している。面会簿はノート形式で管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 認知症の進行に伴い理解が困難な方もおられるが説明を何度も行うようにしている。なかなか納得を得るのが難しい。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側の都合を優先する場合もあるが出来るだけ各自のペースで生活できるよう努力している。 (外部評価) 職員は一人ひとりのペースを尊重した生活を大切にしたいと考えており、本人の希望に沿った支援を目指している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 家族と希望される美容院へ行かれる方もいるが苑への出張理容を利用されている方がほとんどである。自分でもたれている化粧品でおしゃれをされている方もいる。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は給食部が作っており調理は利用者はされていない。献立は栄養士が行っている。配膳も困難なかがほとんどである。下膳など片付けは出来る方もいる。 (外部評価) 献立は栄養士が立て、1か所で職員が調理したものを介護職が個々に配膳しており、片付けも職員が行っている。職員は一緒にテーブルで各自が持参した弁当などを食べている。介助の必要な方に対してもさりげない支援をしている。	※	利用者にとって、食事の場面での役割があまりないため、それぞれに応じた役割を見つけることを期待する。また、利用者と同じ食事をとることの意味についても検討を期待する。食事内容の好みを聞いたり、食堂以外で食事する機会についても検討することを期待する。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) おやつは給食部の管理となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を付けトイレ誘導や声かけをおこない各自のリズムに合わせるようにしている。紙パンツやパットの使用を減らせた方もいるが、認知症の進行に伴い減らせていない方もいる。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴はほぼ毎日あり、入るかどうかは本人の希望に合わせている。時間帯は職員数の関係もあり決まってしまうが、入浴はゆっくりくつろげるように入っている。 (外部評価) 毎日入浴可能な体制となっており、できるだけ本人の希望にそうよう支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 安心して眠れるよう支援し、昼間の自由に休息されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) レクやドライブ、行事など取り入れている。入居者の希望により臨機応変に対応している。 (外部評価) レクリエーションや行事などを計画している。日常生活の中で、掃除・洗濯物たたみ・縫物等の役割を担ってもらっているが、食事の前後に関する役割がないために全体的に役割のメニューが少ない。	※	利用者の生活歴や意向、家族からの情報等から、本人の力に合った役割や楽しみごとを見つけ、支援することを期待する。特に食に関することは生活の上では大切なので、役割をもてるよう工夫することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 月1回買い物レクを行っている。お金に対する認識が無い方がほとんどであるが使っていただくようにしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩などしているが、身体的状況により外出機会の少ない方もいる。 (外部評価) 散歩は日常的に出かけられるよう支援している。買い物や弁当持参での外出機会は少ないが、買い物の機会が少ないためにホーム内で職員が店を作り、お金の支払いの機会をもつように配慮している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 皆で月1, 2回外出するようにしているようにしている。家族の方と一緒にいくこともあるが、全員の希望に添えないときもある。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は家族から拒否の方がおられる。また、本人が掛けるということが出来ないあるいは理解不可のかたも多くおられ自ら掛けることが出来ていないが、電話口に出て話すことはできている。		手紙やはがきを出せるように支援していきたい。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に訪問して下さっており、居室にて一緒にすごされたりホールにて会話されたりされている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていないが安全面を考慮し言葉による拘束がやむを得ずでることがある。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 徘徊や帰宅願望、不穏等あり危険回避のため玄関に施錠せざるをえない状況である。 (外部評価) 入所して日が浅い利用者で、帰宅願望が強い方がいるため、調査日現在は2つのユニットで鍵をかけている。職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、家族には説明して了解を得ている。玄関や共用空間の要所にはモニターが設置されているが、鍵をかけない方法について検討を続けることを期待する。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) ホールにおられる時は常に見守りを行っているが居室に居られる時はプライバシーの配慮の為充分には把握できない方もいる。(家族様了承済み)		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 各利用者の状態に応じて対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 勉強会を毎月行い知識や危機管理意識の向上に取り組んでいる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 勉強会において看護職員、消防署職員による指導、訓練を定期的に行っている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 3階建てのため危険を認識し定期的に訓練を行い、近隣住民の方へ協力を依頼している。 (外部評価) 年2回訓練を実施しており、訓練後には評価を行って次に活かしている。近隣住民の協力体制はできているが、非常災害時の避難場所や備蓄等についても具体的に検討することを期待する。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 家族へ利用者の状態とリスクを説明し、本人にとって最良と思われる策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調変化は職員間で速やかに話し合い、家族へ連絡し対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護職員が管理している。全職員が全ての薬を細かく把握するという事には至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物は栄養士の管理となっているが、刻み対応水分補給に心かけている。散歩やレクを取り入れている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、栄養は栄養士管理ではあるが摂取量は職員が一人一人の確認を行い対応している。摂取状態を栄養士に報告し献立に反映依頼している。 (外部評価) 栄養士によるチェックを受けており、制限食の方は主食の量で調節している。水分は食事・間食時と夜間に気をつけており、夏期の水分補給には特に注意している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インフルエンザの予防接種を行っている。うがい、手洗いを実施し居室、ホール、トイレ等の消毒を行っている。汚染対応時は手袋使用している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は給食部にて管理している。食器は定期的に消毒している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 花壇があり近所の方も一緒に手入れをしてくれている。 玄関横のベンチを利用してくださったりしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 清潔に心掛け、季節の展示物や花を飾ったりしている。 (外部評価) 居間、食堂、廊下、トイレ、ベランダ等共用空間は広々とゆったりしている。台所のスペースが目に入らない配置のためすっきりしており、余分なものがなく片付いている。季節の飾りや草花が配され、四季を感じられるような工夫がある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各自の自然に出来た指定席のようなものがある。気のあった方同士と一緒に過ごされたりしている。一人になりたい時は居室に入られている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使いなれた家具など持ってこられている。 (外部評価) 大きなロッカーが設置されており、全体にすっきりしているが、それぞれが使い慣れた品物を持ち込んでいる居室は少ない。	※	使い慣れた品物の持ち込みが少ないため、家族の協力を得ながら、本人にとって居心地の良い居室となるよう検討を重ねることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気や空調はこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリー、手すりにて対応している。		脱衣場にも手すりを付けたい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 声かけ見守りを行い自分で出来る事はして頂き、また出来る範囲での家事への参加をして頂いている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 天気の良い日は外気浴、日光浴を行い、花摘みや家庭菜園をおこなっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	毎日入居者の方と会話を行いコミュニケーションを取って把握するようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	食事やお茶を一緒にゆっくりと摂ったり会話したりする。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	見当識障害の方の影響が大きくあり、各自のペースで暮らせるよう努めているが、困難な部分もある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居を納得されていない方や、帰宅願望の激しいかたがいるものの、毎日笑顔や笑い声はある。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の身体的及び職員の人数配置により困難な部分があるが出来るだけ支援するようにしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日のバイタルチェック、身体観察を行い状態に応じ受診をおこなっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望に沿える様、苑でできる範囲の対応はしている
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時等利用し相談、話し合いをおこなっている。また必要に応じ電話連絡もとっている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	たまに尋ねてきてくださっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域行事や苑行事への参加が増えてきている。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員同士は協力しあって互いに信頼し仕事をしているが、ストレスがありストレス解消の必要がある。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	満足していると思われるが全員が十分に満足できるほどには至っていない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時や推進会において家族様より声を頂いている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

地域行事へ参加したり、苑の行事で地域の方、家族様、ボランティア、他事業所の方との交流をはかっている。